

平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果について

平成29年4月18日に「平成29年度全国学力・学習状況調査」が実施されました。このたび、鎌倉市全体の調査結果がまとまりましたので、本市の児童生徒の学習・生活状況の概要をお知らせします。

1 調査の概要

(1) 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(平成29年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領：文部科学省から)

(2) 実施状況

○実施年月日 平成29年4月18日（火）

○実施内容 ①小学校の教科に関する調査（国語・算数）

主として知識に関する問題 国語A、算数A

主として活用に関する問題 国語B、算数B

②中学校の教科に関する調査（国語・数学）

主として知識に関する問題 国語A、数学A

主として活用に関する問題 国語B、数学B

③児童生徒質問紙調査（生活習慣や学習環境等）

○在籍児童生徒数

小学校6年生 16校 1,323人

中学校3年生 9校 1,140人

(3) 調査結果の見方

本調査により測定できる学力は、あくまでも特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることから、児童生徒が身に付けるべき学力の全てを表すものではない。

※ 使用している用語についての説明は次のとおり。

○平均正答数 … 児童及び生徒の正答数の平均

○平均正答率 … 児童及び生徒の平均正答数を百分率で表示

- 中央値 …… 集団のデータを大きさの順に並べた時に、真ん中にくる値のこと。
 平均値とともに集団における代表値としてとらえられます。
- 標準偏差 …… 集団のデータの平均値からの離れ具合（散らばりの度合い）を表す数値。
 標準偏差が0とは、ばらつきがない（データの値がすべて同じ）ことを意味します。

2 結果全体の概要

(1) 教科に関する調査（平均正答率：単位％）

○全体の傾向

| 小学校 | | 国語A | 国語B | 算数A | 算数B |
|--------------|-----|------|------|------|------|
| 鎌倉市 | H29 | 75 | 61 | 80 | 50 |
| | H28 | 73.9 | 60.5 | 79.7 | 49.4 |
| 神奈川県 (公立) | H29 | 73 | 57 | 77 | 46 |
| | H28 | 70.3 | 58.2 | 76.6 | 47.3 |
| 全国 (公立) | H29 | 74.8 | 57.5 | 78.6 | 45.9 |
| | H28 | 72.9 | 57.8 | 77.6 | 47.2 |

| 中学校 | | 国語A | 国語B | 数学A | 数学B |
|--------------|-----|------|------|------|------|
| 鎌倉市 | H29 | 81 | 78 | 70 | 54 |
| | H28 | 80.0 | 73.4 | 69.0 | 52.0 |
| 神奈川県 (公立) | H29 | 77 | 72 | 64 | 48 |
| | H28 | 75.4 | 67.0 | 61.9 | 44.3 |
| 全国 (公立) | H29 | 77.4 | 72.2 | 64.6 | 48.1 |
| | H28 | 75.6 | 66.5 | 62.2 | 44.1 |

※文部科学省からの公表結果が、平成29年度から全国平均正答率のみ小数第一位までの数値で、県平均正答率、市平均正答率は整数値に変更となった。

小・中学校ともに、良好な結果であった。特に、中学校の国語B問題、数学A問題・B問題は、全国公立平均正答率及び神奈川県公立平均正答率を大きく上回っており、大変良好であったと言える。これは、今までと同様の結果が出ており、バランスよく基礎・基本の習得とそれらを活用する力の育成が図られていると考えられる。また、小学校の算数B問題では全国、県の公立平均正答率を大きく上回る傾向が見られた。今後も活用する力の向上を期待したい。

3 教科別概要と分析、改善に向けて

記号の説明

◇・・・・・・全国平均正答率より5ポイント以上高かった設問

◆・・・・・・全国平均正答率より5ポイント以上低かった設問

※神奈川県教育委員会の分析基準に準拠

【小学校 国語】

《概要》

国語A「主として知識に関する問題」、国語B「主として活用に関する問題」ともに結果は良好であった。

領域では国語A、国語Bともに「話すこと・聞くこと」において、概ね良好な結果である。中でも、スピーチメモを使うことよさを理解し、話の構成を工夫して話す力が育っている。「書くこと」では概ね良好な結果であったが、手紙を書く場合の構成を理解し、日付や書名、宛名など位置を含めて正しく書くことにやや課題が見られる。「読むこと」においては良好な結果である。特に、資料の中から新聞づくりに必要な段落を選択する設問の正答率が高く、目的に応じて文章の中から必要な情報を見つけて読む力が身に付いている。

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」においては、既習の漢字を正しく書くことについて課題が見られた。

《領域別分析》

話すこと・聞くこと

◇話の構成を工夫して話すことができるなどのスピーチメモのよさを捉えること。(B1 二) (75.6%)

◆該当なし

書くこと

◇該当なし

◆物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめること。(B3 三) (無解答率24.5%)

《改善に向けての指導のポイントと対応した具体例》

○改善に向けての指導のポイント

物語全体を見通すことのできるような指導の充実。

○対応した具体例

今までの読書経験を踏まえ、叙述と自分の体験や他者との解釈を結び付けたり、他の作品と比べたりして読み、目的や意図に応じて自分の考えをまとめる学習。

読むこと

◇目的に応じて、文章の中から必要な情報を見つけて読むこと。(A3) (79.9%)

◆該当なし

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

◇該当なし

◆学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書くこと。(A7(2) 希望者) (72.4%)、
(A7(5) 置いてある) (71.5%)

《改善に向けての指導のポイントと対応した具体例》

○改善に向けての指導のポイント

当該学年までに配当されている漢字を習得する指導の充実。

○対応した具体例

習得した漢字を書く機会を可能な限り多く、意図的・計画的に設定し、児童が漢字をより身近なものとして捉える学習。

《改善に向けて、鎌倉市としての取組》

「書くこと」については、目的や意図に応じて文章全体の構成を考慮することや、目的に応じて引用して書く力が身に付いているが、手紙についての構成を考慮することや、日付、書名、宛名の位置を正しく書く力にやや課題が見られる。低学年のころから手紙を書く活動を設定し、手紙を書くことに慣れさせ、そこから発達の段階に応じて手紙の構成を考慮することや、日付や署名、宛名など位置を含めて正しく書く活動につなげる必要がある。また、物語を読み、書かれていることを根拠として、考えをまとめる力がやや課題と見られる。目的に応じた必要な情報を文章の中から読み取る力は育っているため、文章から見つけた根拠をもとに、自分の考えを短い文章でまとめる学習活動等の工夫で改善につなげたい。

漢字を正しく書くことや読むことについて、下学年で定着しておくべき漢字の読み書きが不十分であることがうかがえる。新しく学習する漢字を繰り返し書いて練習するだけでなく、学校生活の中でも、文章を書く際には既習漢字を必ず使用することを指導するなど、確実に定着させる工夫が大切である。

【小学校 算数】

《概要》

A「主として知識に関する問題」、B「主として活用に関する問題」とともに結果は良好である。領域ごと

においても大きな偏りはないが、加法と乗法の混合した整数と小数の計算にやや課題が見られる。

「主として活用に関する問題」では、数と計算の領域において、「数量の関係の考察と一般化」や「情報の選択と数学的な表現及び方法の解釈とその適用」の正答率が高く、必要な情報を選択して数学的に処理したり、算数のきまりを見い出す楽しさを実感したりする児童が育っている。

《領域別分析》

数と計算

◇示された考えを解釈し、数を変更した場合も同じ関係が成り立つことを図に表現すること。

(B1(2)87.9%)

◇問題に示された二つの数量の関係を一般化して捉え、そのきまりを記述すること。(B1(3)44.3%)

◇示された資料から必要な数値を選び、その求め方と答えを記述すること。(B2(1)47.4%)

◇直線の数とその間の数の関係に着目して、示された方法を問題場面に適用すること。(B2(2)34.7%)

◆該当なし

量と測定

◇高さが等しい平行四辺形と三角形について、底辺と面積の関係を理解すること。(A5) (73.6%)

◇飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める式を選ぶこと。(B3(1)) (78.3%)

◆該当なし

図形

◇該当なし

◆該当なし

数量関係

◇問題に示された二つの数量の関係を一般化してとらえ、そのきまりを言葉と数を用いて記述できること。(B1(3)) (44.3%)

◇料金の差を求めるために、示された資料から必要な数値を選び、その求め方と答えを、言葉や式を用いて記述できること。(B2(1)) (47.4%)

◇飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める式を選ぶこと。(B3(1)) (78.3%)

《改善に向けて、鎌倉市としての取組》

本調査から、基礎的・基本的な知識・技能は概ね定着しているといえる。さらに「主として活用に関する問題」においては、高い正答率となっており数学的な考え方が身に付いている。しかし、加法と乗法の混在した小数の計算に、やや課題があり、四則計算の決まりや、小数の乗法の筆算などの反復による練習などで、確実に定着させていくことが大切である。また、数量関係とグラフを関係付けて考える点もやや課

題がみられ、グラフの表す意味を考えることや、数量関係からグラフを作るだけでなく、グラフから数量関係を見つけていく学習が大切になってくる。

今後も基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させ、算数に苦手意識をもつ児童に対しては、日常生活に即した課題を扱ったり、具体物を操作する活動を取り入れたりして、分かる、できる楽しさを実感できることが大切である。また、図形領域では大きな課題はないが、合同な図形や立体の特徴を理解し応用させた学習を充実させていくことも大切である。

無解答率が高い傾向にあることから、授業において、自分の解答に自信がない事柄について、先生や友達からの答えを待つのではなく、自分なりに考えて表現したり、答えたりする機会を多く設け、主体的に学習する力を育てていくことが重要となる。

【中学校 国語】

《概要》

国語A「主として知識に関する問題」、国語B「主として活用に関する問題」ともに結果は良好である。

領域では、国語Aの「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」において、全体的に概ね良好ではあるものの、漢字を正しく書くことについて、文脈に即した言葉を漢字で書いたり読んだりすることにやや課題が見られる。

国語Bにおいては全ての領域で良好な結果である。身に付けた知識を活用する力が育っていることがうかがえる。

無回答率が全体的に低い傾向があり、特に記述式の問題での無回答率が低いことから、国語についての関心・意欲が育っていると見える。

《領域別分析》

話すこと・聞くこと

◇事実と考えとの関係に注意し、構成を工夫して話すこと。(A2 二) (86.4%)

◇相手に分かりやすいように語句を選択して話すこと。(A7 一) (63.5%)

◇話すための材料を人との交流を通して集めること。(A7 二) (86.7%)

◇話の論理的な構成や展開などに注意して聞くこと。(B2 二) (81.1%)

◆該当なし

書くこと

◇表現の仕方について捉え、自分の考えを書くこと。(B1 三) (53.3%)

◇集めた材料を整理して文章を構成すること。(B3 一) (82.0%)

◇必要な情報を集めるための見通しをもつこと。(B3 三) (79.2%)

◆該当なし

読むこと

- ◇文章の要旨を捉えること。(A4 一) (86.2%)
 - ◇文章の構成や展開、表現の特徴について自分の考えをもつこと。(A4 二) (78.9%)
 - ◇場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解すること。(A6 一) (81.3%)
(A6 二) (67.2%)
 - ◇文章の表現の仕方について自分の考えをもつこと。(A8 一) (87.0%)
 - ◇文章に表れているものの見方や考え方について、交流を通して自分の考えを広くすること。
(A8 二) (80.4%)
- ◆該当なし

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ◇語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと。(A9 三ア) (83.1%)
(A9 三イ) (68.5%)
 - ◇事象や行為などを表す多様な語句について理解すること。(A9 五) (40.9%)
- ◆該当なし

《改善に向けて、鎌倉市としての取組》

大きな課題は見受けられないが、生徒質問紙の「国語の勉強は好きですか。」という質問において「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の割合がやや低いことから、国語の授業が生徒にとって「分かる」、「楽しい」といった魅力ある授業づくりを一層図る必要がある。

そのためには、生徒が課題意識を持ち、何を解決するのか、またどのように解決するのか見通しを持つことができるよう課題の設定をすることや、授業で付けたい力を明確にし、生徒が「何を学んだか」、「何ができるようになったか」を実感できる指導など、目標の提示や振り返り活動の工夫が大切となる。

さらに、「書く」活動を日常化し、書くことにより自分の考えが明確になってくることを自覚させ、それをもとに表現させるような指導を工夫することも大切となる。

日々の授業では、論理的に思考し、論理的に説明する場を設定することや、自分の考えを分かりやすく説明したり、互いに自分の考えを表現し合ったりすることを計画的に行う必要がある。また、自分の考えや意見を深めたり広げたりするために、学級やグループで話し合う場の設定の工夫も必要となる。

なお、生徒の取組に対して適切な評価を行い、学習の成果を生徒に実感させることも重要となる。

【中学校 数学】

《概要》

数学 A「主として知識に関する問題」、数学 B「主として活用に関する問題」とともに結果は良好である。

領域では「数と式」において、様々な数や文字を使った四則計算などは良好な結果であるが、計算のきまりの理解にやや課題が見られる。「図形」においては、知識・理解の定着により筋道を立てて考え、証明

することができている。

また、「関数」において、関数の意味をよく理解し、一次関数のグラフから式で表すことができるなど良好な結果である。さらに、「資料の活用」において、用語の意味をよく理解しているが必要な情報の選択や解釈にやや課題が見られる。

昨年度と同様に、全体的に無解答率が低く、数学に関する関心・意欲の高さが見受けられる。

《領域別分析》

数と式

◇正の数と負の数について理解し、四則計算の意味を理解していること。(A1(2)) (77.4%)

◇数量の関係を文字式に表すこと。(A2(1)) (66.0%)

◇二元一次方程式の解の意味を理解していること (A3(3)) (66.0%)

◇与えられた説明の筋道を読み取り、事象を数学的に表現すること。(B2(2)) (51.8%)

◇事象を的確に捉え、数学的に表現したり説明したりすること (B2(3)) (20.3%)

◆該当なし

資料の活用

◇与えられた範囲の意味を理解し、資料の散らばりの程度を表すこと。(A14(1)) (40.8%)

(A14(2)) (51.5%)

◇確率について理解し、それをを用いて考察し表現すること。(A15(1)) (86.9%)

◇資料から必要な情報を適切に読み取ること。(B5(1)) (84.3%)

◆該当なし

図形

◇角の二等分線の作図について理解すること。(A4(1)) (75.8%)

◇扇形の弧の長さが中心角の大きさに比例することを用いて、それらを求めること。(A4(3)) (41.8%)

◇円柱の体積を求めること。(A5(4)) (52.7%)

◇空間における直線と平面の平行について理解すること。(A5(1)) (75.0%)

◇基本的な平面図形の性質を、根拠のもとに理解すること。(A6(1)) (52.7%)

(A6(2)) (76.8%)

(A7(1)) (87.4%)

(A7(2)) (56.5%)

◇2つの図形の関係を、回転移動に着目して捉え、数学的表現で説明すること。(B1(2)) (23.4%)

◇図形の性質を基にして筋道を立てて考え説明すること。(B4(1)) (60.2%)

(B4(2)) (70.0%)

◆該当なし

関数

◇関数の意味を理解し、与えられた比例の式について、 x の値に対応する y の値を求めること。

(A9) (25.6%)

(A10(1)) (89.7%)

◇一次関数のグラフの傾きと切片の値から、 x と y の関係を式で表すこと。(A11(1)) (84.7%)

◇数学的な表現を事象に即して解釈し、的確に処理すること。(B3(3)) (51.8%)

◆該当なし

《改善に向けて、鎌倉市としての取組》

本調査から、基礎的・基本的な知識・技能は概ね定着しているといえる。さらに主として活用の領域においては非常に高い正答率となっており、数学的な考え方が身についている。

また、各領域の基礎的・基本的な問題で正答率の低い設問もあり、さらに確実な定着を目指した指導が必要となる。

全体的に無解答率が低く、問題に取り組む姿勢や学習意欲が評価できる。

4 児童生徒質問紙の特徴及び課題と改善に向けて

【児童質問紙 小学校】

《特徴及び課題》

◎個人について

自尊感情について、自分には良いところがあると思っている児童が8割強、難しいことでも失敗を恐れないで挑戦していると答えた児童は8割弱いる。

また、規範意識については、肯定的な回答をした児童が多く、学校のきまりを守っていると答えた児童は9割、いじめはどんなことがあってもいけないことだと思っている児童は9割半ばである。

外国の人と友だちになり、外国のことについてもっと知りたいと思っている児童が8割弱いることから、外国人が多く訪れ、接点を持つ機会が多い鎌倉に住む児童の特徴と見受けられる。

◎学校生活について

学校生活については概ね良好な結果であった。

例を挙げると、今までに受けた授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと答えた児童は8割半ば、授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと答えた児童は7割弱であった。

また、国語・算数の学習状況については、国語の勉強が好きと答えた児童は6割強、授業の内容が分かると答えた児童は8割強ほどいる。また、算数の勉強が好きと答えた児童は7割弱、授業の内容が分かると答えた児童は8割いる。そして、9割強の児童が国語や算数の勉強が大切だと思うと答えてい

る。道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んできたと思うと8割弱ほどの児童が答えている。

他にも、学校に行くことが楽しいと答えた児童は8割半ば、友だちに会うことが楽しいと答えた児童は9割半ばいる。また、先生がよいところを認めてくれると思っている児童は8割強、授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、分かるまで教えてくれると答えた児童は8割弱である。

将来に夢や希望を持ち、授業で学んだことを学習や普段の生活に生かしていると考えている児童は8割半ばとなっている。

◎家庭生活について

基本的な生活習慣について全体的に良好であるといえる。特にほぼ全ての児童が朝食を毎日食べており良好な結果である。

その他の例を挙げると、月曜日から金曜日の間で、1日あたり2時間以上テレビやDVDを見たり聞いたりすると答えた児童は5割強で、同じく2時間以上テレビゲームをすると答えた児童も5割弱となっている。また、携帯電話やスマートフォンで通話やメールをする時間は「30分より少ない」と答えた児童が4割いた。しかし、携帯電話やスマートフォンを持っていないと答えた児童が3割弱おり、6割強の児童は持っていることがうかがえ所持率は高いといえる。

学習習慣についても全体的に良好だといえる。例えば、月曜日から金曜日で、1日あたり2時間以上、授業以外で勉強していると答えた児童は4割弱、また、休日も2時間以上勉強していると答えた児童は3割強いる。

他の例でも、学習塾に通っていないと答えた児童が4割弱ということから、通っている児童が6割強いることがうかがえる。また、その塾に通っている児童の内、塾では学校の勉強より進んだ内容や難しい内容を勉強しているという予習型の学習をしている児童は4割弱、よく分からなかった内容の学習をしていると答えた児童が1割弱、両方を行っていると答えた児童は1割強である。

◎地域生活について

地域生活については、やや課題があると考えられる。例えば、地域の行事に参加していると答えた児童は5割半ば、地域社会のボランティアに参加したことがあると答えた児童は3割である。

《改善に向けて》

◎個人について

児童の自尊感情については良好といえる。これからも児童のよいところを学校生活の中で見つけ、褒めてあげることで自信と自尊感情がさらに育つようにしたい。規範意識については課題として捉え、学校のきまりを守る意味を考え、きまりを守ることによってより楽しい集団生活となっていくことを実感させ、規範意識をさらに高めていくことが大切である。同じく、いじめはどんなことがあってもいけないことだと、道徳の授業や日常生活の場面で指導を十分に行う必要性もあると考えられる。

◎学校生活について

5年生までの学習において見えてきたことは、学習の目標を提示することと比べると、授業の最後に学習の振り返りを行うことが行われていない傾向があることである。目標の提示は、児童にこの授業での学ぶことを認識させることで、見通しを持ち安心して学ぶことにつながるので大切だが、同じように授業の最後で、何を学んだかを児童に自覚をさせ確実な定着につなげていくことも大切にしなければならない。

国語や算数の学習状況では、勉強が大切と思い、授業の内容は理解している様子がかがえるが、分かりやすく楽しく学べる授業の工夫を続け、児童の学習に対する関心・意欲を大切にしながら、国語や算数を好きだと答える児童を育てていくことが大切である。

また、児童が学習につまずいたことを見逃さずに最後まで寄り添って教え、児童が学習に対して苦手意識を持たないように手立てをしていくことも大切となる。

道徳の授業では、考え、議論する道徳が来年度から始まる。話し合いを通して、自分の考えが変容したり、深まったりする場を設定した道徳の授業づくりを進めていくことが重要である。

◎家庭生活について

基本的な生活習慣については概ね良好と考えられる。

学習習慣では、家庭での学習が定着するよう課題を出すなどの取組を行い、予習、復習ができるようにすることが大切である。

◎地域生活について

地域生活では、地域社会の行事やボランティア活動への参加を呼びかけたり、地域の方の外部講師の参加を促したりするなど、社会に開かれた教育課程の視点を持ち、地域社会との協働的な学習の機会を増やしていくことが大切であると考えられる。

【生徒質問紙 中学校】

《特徴及び課題》

◎個人について

自尊感情については、良好であり、自分には良いところがあると思っている生徒が7割半ば、難しいことでも失敗を恐れずに挑戦していると答えた生徒は7割いる。

規範意識については肯定的な回答をした生徒が多く、学校のきまりを守っていると答えた生徒は9割強、いじめはどんなことがあってもいけないことだと思っている生徒は9割弱である。

外国の人と友だちになり、外国のことについてもっと知りたいと思っている生徒が7割強、外国に留学することや、国際的な仕事に就いてみたいと思う生徒は5割弱ほどおり、外国人が多く訪れ、接点をもつ機会が多い鎌倉に住む生徒の特徴と見受けられる。

◎学校生活について

中学2年生までの学習については、良好な結果である。「総合的な学習の時間」で課題解決学習に積極的に取り組んだと考えている生徒は8割弱である。

また、今までの授業で、生徒間の話し合う活動をよく行っていたと思う生徒は9割弱いる。他の例でも、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思う生徒も8割強ほどである。このことから言語活動の充実がうかがえる。

今までの授業の中で、目標（めあて・ねらい）が示されていたと答えた生徒は9割弱、授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと答えた生徒は6割弱であった。

国語・数学の学習状況については、国語が好きだと答えた生徒は5割弱、授業の内容が分かると答えたのは7割強、数学が好きだと答えた生徒は6割、授業の内容が分かると答えたのは8割弱であった。そして、9割弱の生徒が国語の勉強が大切だと思うと答え、8割強の生徒が数学の勉強が大切だと思うと答えている。また、国語、数学ともに記述式問題に最後まで解答を書こうと努力したと9割を超える生徒が答えている。

学校に行くことが楽しいと答えた生徒は8割強、友だちに会うことが楽しいと答えた生徒は9割半ばいる。

また、先生がよいところを認めてくれると思っている生徒は8割弱、授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、分かるまで教えてくれると答えた生徒は7割である。

◎家庭生活について

生活習慣については全体的に良好な結果となっている。例えば、月曜日から金曜日の間で、1日あたり2時間以上テレビやDVDを見たり聞いたりすると答えた生徒は4割強ほどで、同じく2時間以上テレビゲームをすると答えた生徒は3割弱となっている。また、携帯電話やスマートフォンで通話やメールをする時間は「30分より少ない」と答えた生徒は2割弱となっている。携帯やスマートフォンを持っていないと答えた生徒は1割強ほどおり、9割弱の生徒が持っていることがうかがえる。

学習習慣については、良好な結果であるといえる。平日、休日とも学校以外での学習の時間が2時間以上の生徒は5割弱いる。

学習塾に通っていないと答えた生徒が2割ということから、通っている生徒が8割いることがうかがえる。

また、塾に通っている生徒の内、その塾では学校の勉強より進んだ内容や難しい内容を勉強しているという予習型の学習をしている生徒が3割半ば、よく分からなかった内容の学習をしているのが約1割弱、両方を行っているとした生徒も3割半ばである。

◎地域生活について

地域生活については、やや課題があると考えられる。地域の行事に参加していると答えた生徒は4割強、地域社会のボランティアに参加したことがあると答えた生徒は6割5分である。

《改善に向けて》

◎個人について

本調査における本市の集計結果から、生徒の自尊感情については良好であるが、生徒のよいところを学校生活の中で見つけ、褒めてあげることや、様々な課題に対して達成感を持たせることで、自信と自尊感情がさらに育つようにしたい。規範意識については課題として捉え、学校のきまりを守る意味を考え、実行するとより楽しい集団生活となっていくことを実感させ、規範意識をさらに高めていくことが大切である。同じく、いじめはどんなことがあってもいけないことだと、道徳の授業や日常生活の場面で指導を十分に行う必要性もあると考えられる。

◎学校生活について

授業では、話し合ったり聞いたりする学習活動を行なっているという割合が高く、その中でも生徒間での話し合い活動の割合が高いことから、言語活動の充実が図られてきていると考えられる。日々の授業では「生徒が主体的に取り組む」「対話を通して学びを深めていく」といった授業形態の工夫が今後は必要である。言語活動の充実はその学習活動の一つであるので、生徒が自分の考えをまとめたり、発表したり、他者の意見を聞いて再考したりするなどの活動を一層充実させることが大切である。

◎家庭生活について

学校以外での学習時間が全国に比べて高いことから、学習塾での学習時間が長いことがうかがえる。それに伴い、家庭でゲームやメールなどをする時間が低いと考えられる。

家庭生活では、学校での学習内容を確実に覚えることや応用力を養うため、学習の進度や生徒に合わせた家庭学習の課題を出す必要があると考える。

◎地域生活について

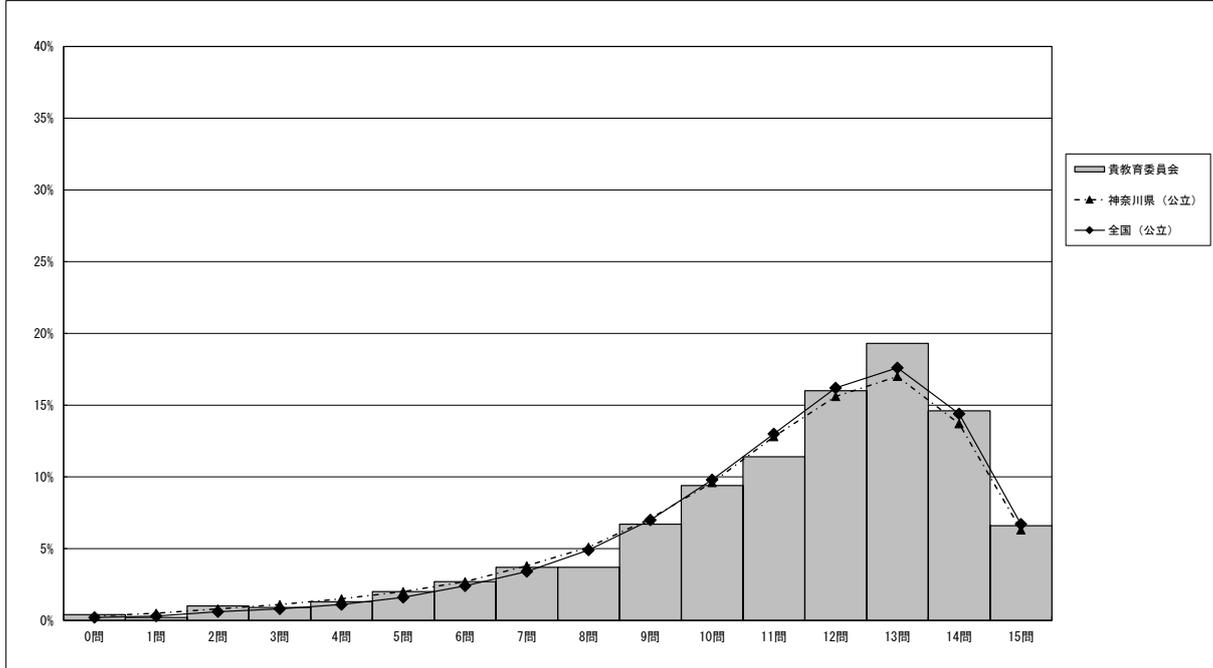
生徒は、地域や社会で起こっている問題や出来事等について関心はあるものの、実際に地域行事や活動には積極的に参加していない状況が見られる。よりよい地域づくりに貢献できる生徒を育てるために、子どもたちの地域行事やボランティア活動への参加を呼びかけるなど、地域・家庭・学校が連携・協働をしながら教育活動を展開していくことが重要である。そのためには、「社会に開かれた教育課程」の視点に立ち、学校だけでなく社会全体を巻き込んだカリキュラムマネジメントを確立していくことが求められている。

・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。
 ※参考値として、在籍児童数、調査対象児童数、当日実施児童数、後日実施児童数、実施児童総数を示す。
 ※在籍児童数及び調査対象児童数は、学校から回答のあった児童の人数を集計した値。
 ※当日実施児童数は、4月18日に実施した調査（国語A）の解答用紙を提出した児童数。
 ※後日実施児童数は、4月19日以降5月2日までに実施した調査（国語A）の解答用紙を提出した児童数。
 ※実施児童総数は、当日実施児童数と後日実施児童数を合計した値。

| | 児童数 | 平均正答数 | 平均正答率 (%) | 中央値 | 標準偏差 | 在籍児童数 | 調査対象児童数 | 当日実施児童数 | 後日実施児童数 | 実施児童総数 |
|----------|---------|-----------|-----------|------|------|-----------|-----------|---------|---------|-----------|
| 鎌倉市教育委員会 | 1,282 | 11.2 / 15 | 75 | 12.0 | 2.9 | 1,323 | 1,312 | 1,282 | 5 | 1,287 |
| 神奈川県（公立） | 70,674 | 11.0 / 15 | 73 | 12.0 | 3.0 | 75,991 | 72,782 | 70,674 | 570 | 71,244 |
| 全国（公立） | 999,683 | 11.2 / 15 | 74.8 | 12.0 | 2.8 | 1,055,335 | 1,029,681 | 999,683 | 11,724 | 1,011,407 |

| 正答数集計値 (左：児童数 右：割合 (%)) | | |
|----------------------------|-----|------|
| 0問 | 5 | 0.4 |
| 1問 | 2 | 0.2 |
| 2問 | 13 | 1.0 |
| 3問 | 12 | 0.9 |
| 4問 | 17 | 1.3 |
| 5問 | 26 | 2.0 |
| 6問 | 34 | 2.7 |
| 7問 | 47 | 3.7 |
| 8問 | 48 | 3.7 |
| 9問 | 86 | 6.7 |
| 10問 | 121 | 9.4 |
| 11問 | 146 | 11.4 |
| 12問 | 205 | 16.0 |
| 13問 | 248 | 19.3 |
| 14問 | 187 | 14.6 |
| 15問 | 85 | 6.6 |

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）

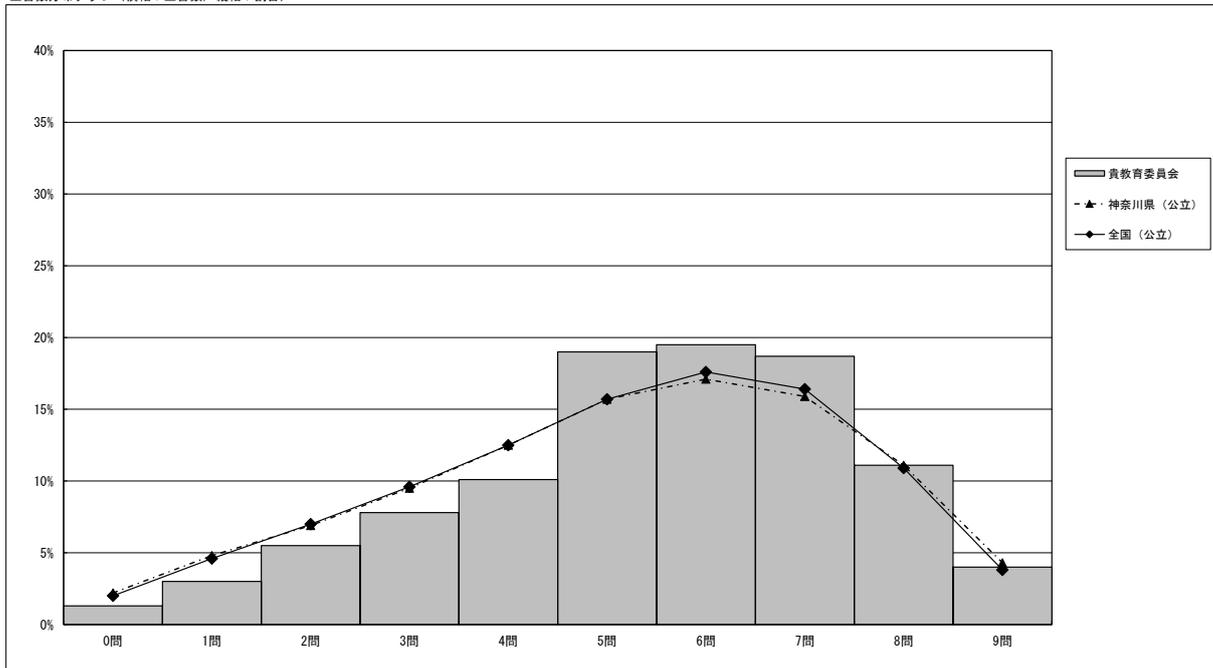


・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。
 ※参考値として、在籍児童数、調査対象児童数、当日実施児童数、後日実施児童数、実施児童総数を示す。
 ※在籍児童数及び調査対象児童数は、学校から回答のあった児童の人数を集計した値。
 ※当日実施児童数は、4月18日に実施した調査（国語B）の解答用紙を提出した児童数。
 ※後日実施児童数は、4月19日以降5月2日までに実施した調査（国語B）の解答用紙を提出した児童数。
 ※実施児童総数は、当日実施児童数と後日実施児童数を合計した値。

| | 児童数 | 平均正答数 | 平均正答率 (%) | 中央値 | 標準偏差 | 在籍児童数 | 調査対象児童数 | 当日実施児童数 | 後日実施児童数 | 実施児童総数 |
|----------|---------|---------|-----------|-----|------|-----------|-----------|---------|---------|-----------|
| 鎌倉市教育委員会 | 1,281 | 5.5 / 9 | 61 | 6.0 | 2.0 | 1,323 | 1,312 | 1,281 | 5 | 1,286 |
| 神奈川県（公立） | 70,672 | 5.2 / 9 | 57 | 5.0 | 2.2 | 75,991 | 72,783 | 70,672 | 566 | 71,238 |
| 全国（公立） | 999,498 | 5.2 / 9 | 57.5 | 5.0 | 2.2 | 1,055,335 | 1,029,698 | 999,498 | 11,678 | 1,011,176 |

| 正答数集計値 (左：児童数 右：割合 (%)) | | |
|----------------------------|-----|------|
| 0問 | 17 | 1.3 |
| 1問 | 39 | 3.0 |
| 2問 | 70 | 5.5 |
| 3問 | 100 | 7.8 |
| 4問 | 130 | 10.1 |
| 5問 | 243 | 19.0 |
| 6問 | 250 | 19.5 |
| 7問 | 239 | 18.7 |
| 8問 | 142 | 11.1 |
| 9問 | 51 | 4.0 |

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



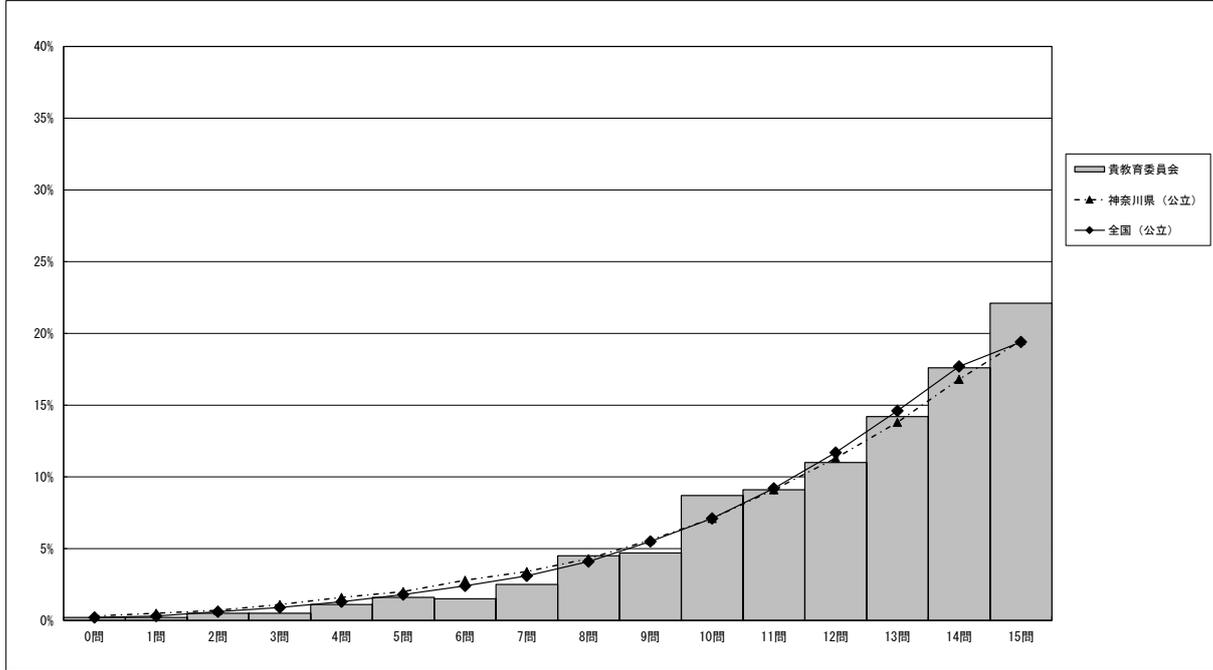
・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。
 ※参考値として、在籍児童数、調査対象児童数、当日実施児童数、後日実施児童数、実施児童総数を示す。
 ※在籍児童数及び調査対象児童数は、学校から回答のあった児童の人数を集計した値。
 ※当日実施児童数は、4月18日に実施した調査（算数A）の解答用紙を提出した児童数。
 ※後日実施児童数は、4月19日以降5月2日までに実施した調査（算数A）の解答用紙を提出した児童数。
 ※実施児童総数は、当日実施児童数と後日実施児童数を合計した値。

| | 児童数 | 平均正答数 | 平均正答率 (%) | 中央値 | 標準偏差 |
|-----------|---------|-----------|-----------|------|------|
| 鎌倉市教育委員会 | 1,282 | 12.0 / 15 | 80 | 13.0 | 2.9 |
| 神奈川県 (公立) | 70,683 | 11.6 / 15 | 77 | 13.0 | 3.2 |
| 全国 (公立) | 999,723 | 11.8 / 15 | 78.6 | 13.0 | 3.1 |

| 在籍児童数 | 調査対象児童数 | 当日実施児童数 | 後日実施児童数 | 実施児童総数 |
|-----------|-----------|---------|---------|-----------|
| 1,323 | 1,312 | 1,282 | 5 | 1,287 |
| 75,991 | 72,778 | 70,683 | 570 | 71,253 |
| 1,055,335 | 1,029,656 | 999,723 | 11,722 | 1,011,445 |

| 正答数集計値 (左：児童数 右：割合 (%)) | | |
|----------------------------|-----|------|
| 0問 | 3 | 0.2 |
| 1問 | 2 | 0.2 |
| 2問 | 7 | 0.5 |
| 3問 | 6 | 0.5 |
| 4問 | 14 | 1.1 |
| 5問 | 21 | 1.6 |
| 6問 | 19 | 1.5 |
| 7問 | 32 | 2.5 |
| 8問 | 58 | 4.5 |
| 9問 | 60 | 4.7 |
| 10問 | 111 | 8.7 |
| 11問 | 117 | 9.1 |
| 12問 | 141 | 11.0 |
| 13問 | 182 | 14.2 |
| 14問 | 226 | 17.6 |
| 15問 | 283 | 22.1 |

正答数分布グラフ (横軸：正答数、縦軸：割合)



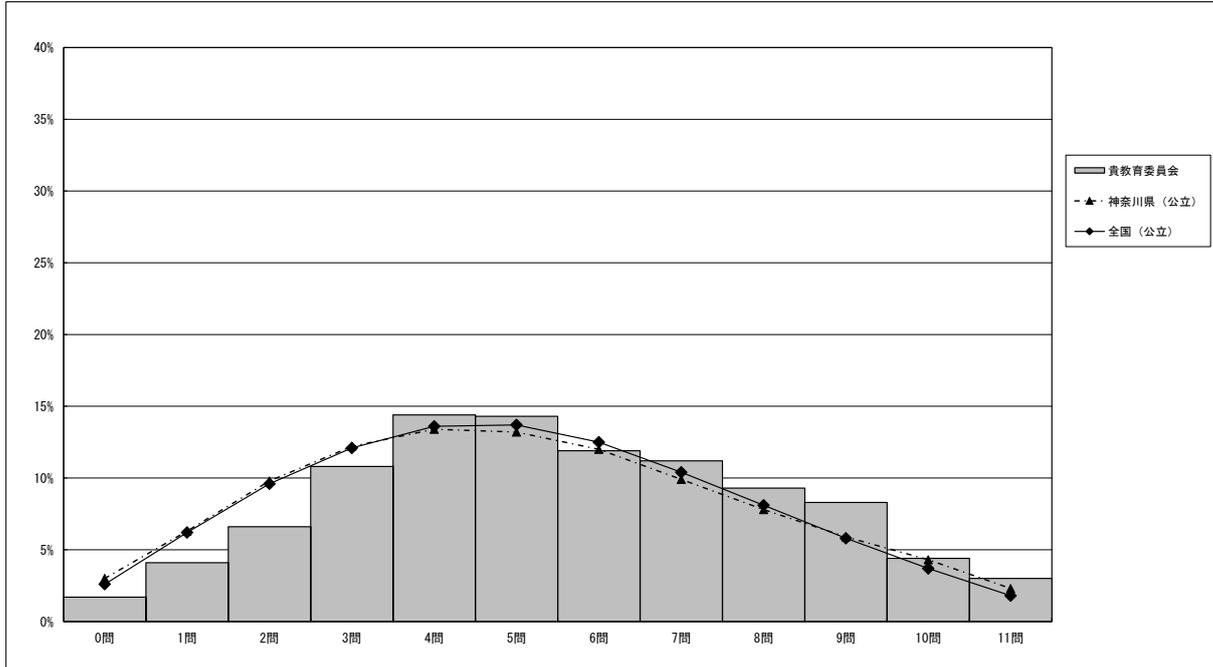
・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。
 ※参考値として、在籍児童数、調査対象児童数、当日実施児童数、後日実施児童数、実施児童総数を示す。
 ※在籍児童数及び調査対象児童数は、学校から回答のあった児童の人数を集計した値。
 ※当日実施児童数は、4月18日に実施した調査（算数B）の解答用紙を提出した児童数。
 ※後日実施児童数は、4月19日以降5月2日までに実施した調査（算数B）の解答用紙を提出した児童数。
 ※実施児童総数は、当日実施児童数と後日実施児童数を合計した値。

| | 児童数 | 平均正答数 | 平均正答率 (%) | 中央値 | 標準偏差 |
|-----------|---------|----------|-----------|-----|------|
| 鎌倉市教育委員会 | 1,281 | 5.5 / 11 | 50 | 5.0 | 2.6 |
| 神奈川県 (公立) | 70,666 | 5.1 / 11 | 46 | 5.0 | 2.7 |
| 全国 (公立) | 999,451 | 5.1 / 11 | 45.9 | 5.0 | 2.6 |

| 在籍児童数 | 調査対象児童数 | 当日実施児童数 | 後日実施児童数 | 実施児童総数 |
|-----------|-----------|---------|---------|-----------|
| 1,323 | 1,312 | 1,281 | 6 | 1,287 |
| 75,991 | 72,780 | 70,666 | 576 | 71,242 |
| 1,055,335 | 1,029,669 | 999,451 | 11,725 | 1,011,176 |

| 正答数集計値 (左：児童数 右：割合 (%)) | | |
|----------------------------|-----|------|
| 0問 | 22 | 1.7 |
| 1問 | 53 | 4.1 |
| 2問 | 85 | 6.6 |
| 3問 | 138 | 10.8 |
| 4問 | 184 | 14.4 |
| 5問 | 183 | 14.3 |
| 6問 | 153 | 11.9 |
| 7問 | 144 | 11.2 |
| 8問 | 119 | 9.3 |
| 9問 | 106 | 8.3 |
| 10問 | 56 | 4.4 |
| 11問 | 38 | 3.0 |

正答数分布グラフ (横軸：正答数、縦軸：割合)



調査結果概況 [国語A：主として知識]
鎌倉市教育委員会一生徒

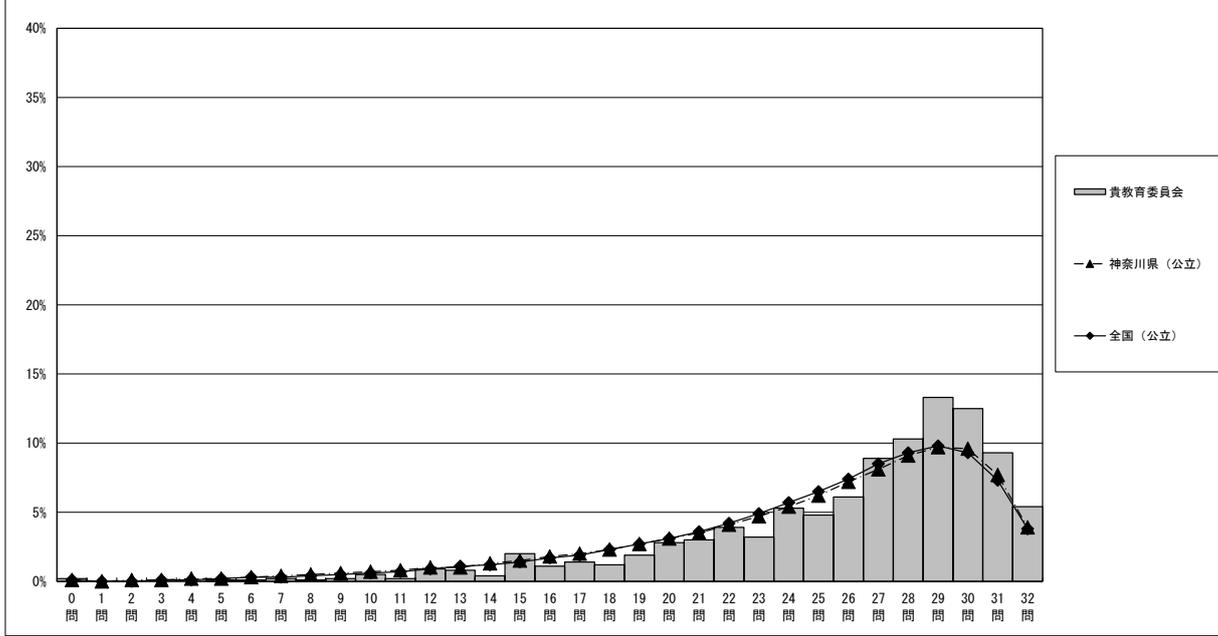
・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。
 ※参考値として、在籍生徒数、調査対象生徒数、当日実施生徒数、後日実施生徒数、実施生徒総数を示す。
 ※在籍生徒数及び調査対象生徒数は、学校から回答のあった生徒の人数を集計した値。
 ※当日実施生徒数は、4月18日に実施した調査（国語A）の解答用紙を提出した生徒数。
 ※後日実施生徒数は、4月19日以降5月2日までに実施した調査（国語A）の解答用紙を提出した生徒数。
 ※実施生徒総数は、当日実施生徒数と後日実施生徒数を合計した値。

| | 生徒数 | 平均正答数 | 平均正答率 (%) | 中央値 | 標準偏差 |
|-----------|---------|-----------|-----------|------|------|
| 鎌倉市教育委員会 | 1,062 | 26.0 / 32 | 81 | 28.0 | 5.1 |
| 神奈川県 (公立) | 64,742 | 24.7 / 32 | 77 | 26.0 | 5.9 |
| 全国 (公立) | 982,511 | 24.8 / 32 | 77.4 | 26.0 | 5.7 |

| 在籍生徒数 | 調査対象生徒数 | 当日実施生徒数 | 後日実施生徒数 | 実施生徒総数 |
|-----------|-----------|---------|---------|---------|
| 1,140 | 1,118 | 1,062 | 0 | 1,062 |
| 69,569 | 68,282 | 64,742 | 17 | 64,759 |
| 1,053,140 | 1,038,428 | 982,511 | 7,768 | 990,279 |

| 正答数集計値 (左：生徒数 右：割合 (%)) | | |
|-------------------------|-----|------|
| 0問 | 2 | 0.2 |
| 1問 | 0 | 0.0 |
| 2問 | 0 | 0.0 |
| 3問 | 0 | 0.0 |
| 4問 | 0 | 0.0 |
| 5問 | 1 | 0.1 |
| 6問 | 1 | 0.1 |
| 7問 | 2 | 0.2 |
| 8問 | 1 | 0.1 |
| 9問 | 2 | 0.2 |
| 10問 | 5 | 0.5 |
| 11問 | 2 | 0.2 |
| 12問 | 10 | 0.9 |
| 13問 | 8 | 0.8 |
| 14問 | 4 | 0.4 |
| 15問 | 21 | 2.0 |
| 16問 | 12 | 1.1 |
| 17問 | 15 | 1.4 |
| 18問 | 13 | 1.2 |
| 19問 | 20 | 1.9 |
| 20問 | 30 | 2.8 |
| 21問 | 32 | 3.0 |
| 22問 | 41 | 3.9 |
| 23問 | 34 | 3.2 |
| 24問 | 56 | 5.3 |
| 25問 | 51 | 4.8 |
| 26問 | 65 | 6.1 |
| 27問 | 95 | 8.9 |
| 28問 | 109 | 10.3 |
| 29問 | 141 | 13.3 |
| 30問 | 133 | 12.5 |
| 31問 | 99 | 9.3 |
| 32問 | 57 | 5.4 |

正答数分布グラフ (横軸：正答数、縦軸：割合)



調査結果概況 [国語B：主として活用]
鎌倉市教育委員会一生徒

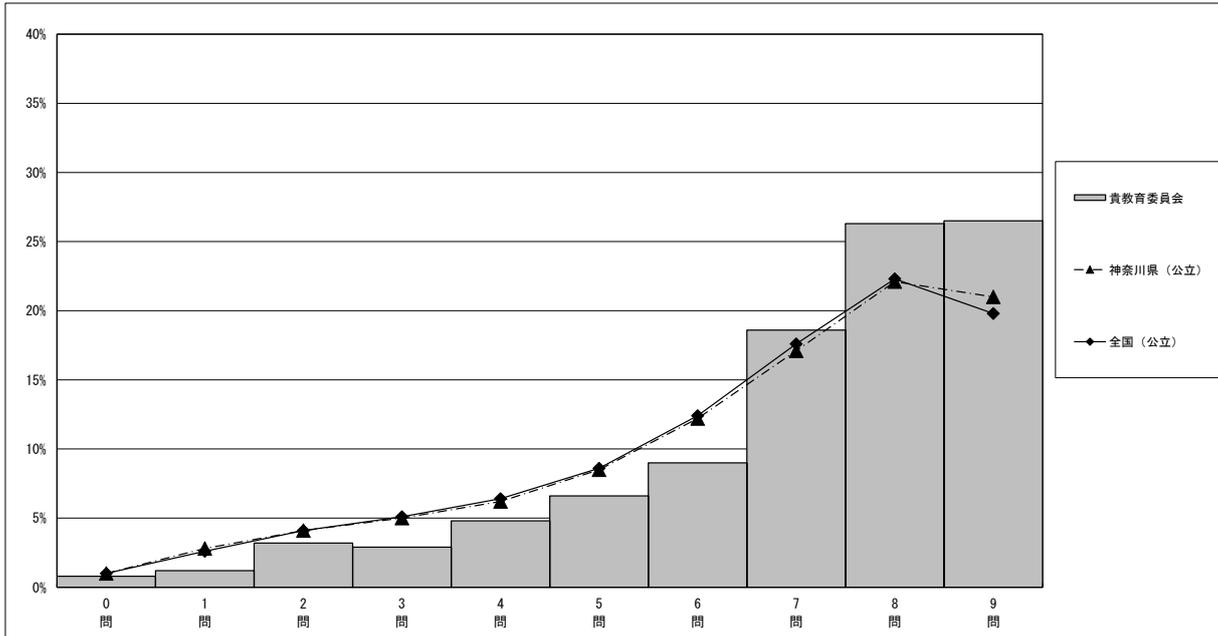
・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。
 ※参考値として、在籍生徒数、調査対象生徒数、当日実施生徒数、後日実施生徒数、実施生徒総数を示す。
 ※在籍生徒数及び調査対象生徒数は、学校から回答のあった生徒の人数を集計した値。
 ※当日実施生徒数は、4月18日に実施した調査（国語B）の解答用紙を提出した生徒数。
 ※後日実施生徒数は、4月19日以降5月2日までに実施した調査（国語B）の解答用紙を提出した生徒数。
 ※実施生徒総数は、当日実施生徒数と後日実施生徒数を合計した値。

| | 生徒数 | 平均正答数 | 平均正答率 (%) | 中央値 | 標準偏差 |
|-----------|---------|---------|-----------|-----|------|
| 鎌倉市教育委員会 | 1,061 | 7.0 / 9 | 78 | 8.0 | 2.1 |
| 神奈川県 (公立) | 64,762 | 6.5 / 9 | 72 | 7.0 | 2.3 |
| 全国 (公立) | 982,619 | 6.5 / 9 | 72.2 | 7.0 | 2.3 |

| 在籍生徒数 | 調査対象生徒数 | 当日実施生徒数 | 後日実施生徒数 | 実施生徒総数 |
|-----------|-----------|---------|---------|---------|
| 1,140 | 1,118 | 1,061 | 0 | 1,061 |
| 69,569 | 68,282 | 64,762 | 17 | 64,779 |
| 1,053,140 | 1,038,431 | 982,619 | 7,760 | 990,379 |

| 正答数集計値 (左：生徒数 右：割合 (%)) | | |
|-------------------------|-----|------|
| 0問 | 9 | 0.8 |
| 1問 | 13 | 1.2 |
| 2問 | 34 | 3.2 |
| 3問 | 31 | 2.9 |
| 4問 | 51 | 4.8 |
| 5問 | 70 | 6.6 |
| 6問 | 96 | 9.0 |
| 7問 | 197 | 18.6 |
| 8問 | 279 | 26.3 |
| 9問 | 281 | 26.5 |

正答数分布グラフ (横軸：正答数、縦軸：割合)



調査結果概況 [数学A：主として知識]
鎌倉市教育委員会一生徒

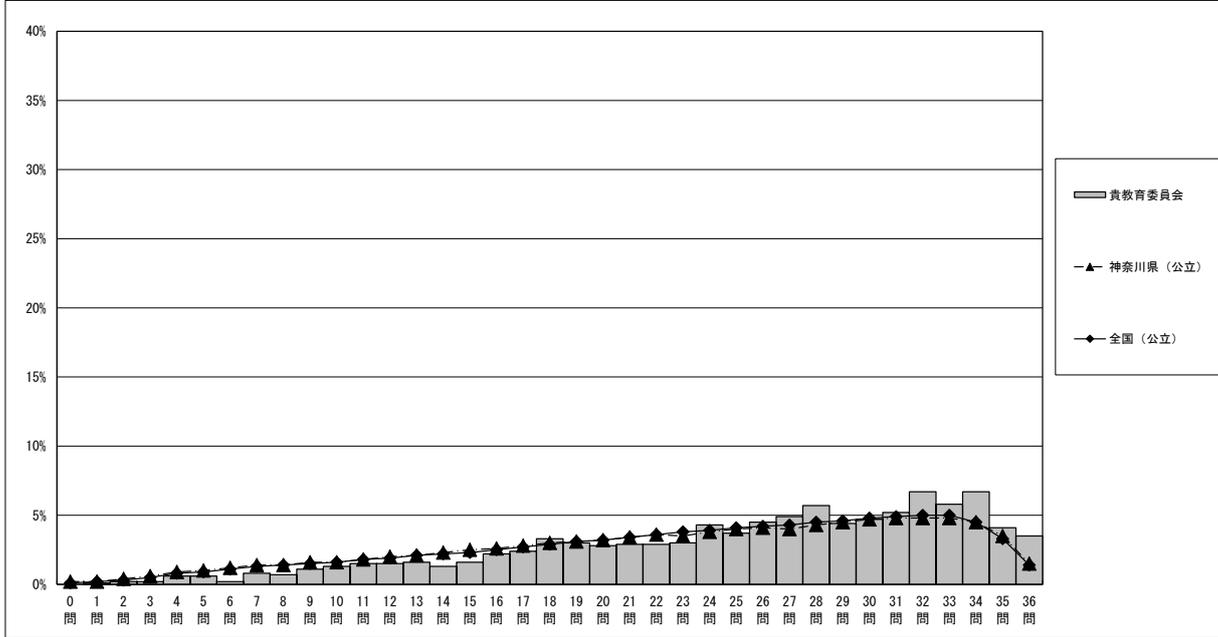
・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。
 ※参考値として、在籍生徒数、調査対象生徒数、当日実施生徒数、後日実施生徒数、実施生徒総数を示す。
 ※在籍生徒数及び調査対象生徒数は、学校から回答のあった生徒の人数を集計した値。
 ※当日実施生徒数は、4月18日に実施した調査（数学A）の解答用紙を提出した生徒数。
 ※後日実施生徒数は、4月19日以降5月2日までに実施した調査（数学A）の解答用紙を提出した生徒数。
 ※実施生徒総数は、当日実施生徒数と後日実施生徒数を合計した値。

| | 生徒数 | 平均正答数 | 平均正答率 (%) | 中央値 | 標準偏差 |
|-----------|---------|-----------|-----------|------|------|
| 鎌倉市教育委員会 | 1,060 | 25.2 / 36 | 70 | 27.0 | 7.9 |
| 神奈川県 (公立) | 64,776 | 23.0 / 36 | 64 | 24.0 | 8.7 |
| 全国 (公立) | 982,811 | 23.3 / 36 | 64.6 | 25.0 | 8.5 |

| 在籍生徒数 | 調査対象生徒数 | 当日実施生徒数 | 後日実施生徒数 | 実施生徒総数 |
|-----------|-----------|---------|---------|---------|
| 1,140 | 1,118 | 1,060 | 0 | 1,060 |
| 69,569 | 68,281 | 64,776 | 18 | 64,794 |
| 1,053,140 | 1,038,408 | 982,811 | 7,756 | 990,567 |

| 正答数集計値 (左：生徒数 右：割合 (%)) | | |
|-------------------------|----|-----|
| 0問 | 0 | 0.0 |
| 1問 | 1 | 0.1 |
| 2問 | 2 | 0.2 |
| 3問 | 2 | 0.2 |
| 4問 | 6 | 0.6 |
| 5問 | 6 | 0.6 |
| 6問 | 2 | 0.2 |
| 7問 | 8 | 0.8 |
| 8問 | 7 | 0.7 |
| 9問 | 12 | 1.1 |
| 10問 | 14 | 1.3 |
| 11問 | 16 | 1.5 |
| 12問 | 16 | 1.5 |
| 13問 | 17 | 1.6 |
| 14問 | 14 | 1.3 |
| 15問 | 17 | 1.6 |
| 16問 | 23 | 2.2 |
| 17問 | 25 | 2.4 |
| 18問 | 35 | 3.3 |
| 19問 | 32 | 3.0 |
| 20問 | 30 | 2.8 |
| 21問 | 31 | 2.9 |
| 22問 | 31 | 2.9 |
| 23問 | 32 | 3.0 |
| 24問 | 46 | 4.3 |
| 25問 | 39 | 3.7 |
| 26問 | 48 | 4.5 |
| 27問 | 52 | 4.9 |
| 28問 | 60 | 5.7 |
| 29問 | 47 | 4.4 |
| 30問 | 50 | 4.7 |
| 31問 | 55 | 5.2 |
| 32問 | 71 | 6.7 |
| 33問 | 62 | 5.8 |
| 34問 | 71 | 6.7 |
| 35問 | 43 | 4.1 |
| 36問 | 37 | 3.5 |

正答数分布グラフ (横軸：正答数、縦軸：割合)



調査結果概況 [数学B：主として活用]
鎌倉市教育委員会一生徒

・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。
 ※参考値として、在籍生徒数、調査対象生徒数、当日実施生徒数、後日実施生徒数、実施生徒総数を示す。
 ※在籍生徒数及び調査対象生徒数は、学校から回答のあった生徒の人数を集計した値。
 ※当日実施生徒数は、4月18日に実施した調査（数学B）の解答用紙を提出した生徒数。
 ※後日実施生徒数は、4月19日以降5月2日までに実施した調査（数学B）の解答用紙を提出した生徒数。
 ※実施生徒総数は、当日実施生徒数と後日実施生徒数を合計した値。

| | 生徒数 | 平均正答数 | 平均正答率 (%) | 中央値 | 標準偏差 |
|-----------|---------|----------|-----------|-----|------|
| 鎌倉市教育委員会 | 1,060 | 8.0 / 15 | 54 | 8.0 | 3.2 |
| 神奈川県 (公立) | 64,779 | 7.2 / 15 | 48 | 7.0 | 3.3 |
| 全国 (公立) | 982,786 | 7.2 / 15 | 48.1 | 7.0 | 3.3 |

| 在籍生徒数 | 調査対象生徒数 | 当日実施生徒数 | 後日実施生徒数 | 実施生徒総数 |
|-----------|-----------|---------|---------|---------|
| 1,140 | 1,118 | 1,060 | 0 | 1,060 |
| 69,569 | 68,280 | 64,779 | 18 | 64,797 |
| 1,053,140 | 1,038,398 | 982,786 | 7,758 | 990,544 |

| 正答数集計値 (左：生徒数 右：割合 (%)) | | |
|-------------------------|-----|------|
| 0問 | 7 | 0.7 |
| 1問 | 14 | 1.3 |
| 2問 | 22 | 2.1 |
| 3問 | 49 | 4.6 |
| 4問 | 64 | 6.0 |
| 5問 | 87 | 8.2 |
| 6問 | 99 | 9.3 |
| 7問 | 109 | 10.3 |
| 8問 | 130 | 12.3 |
| 9問 | 106 | 10.0 |
| 10問 | 123 | 11.6 |
| 11問 | 86 | 8.1 |
| 12問 | 79 | 7.5 |
| 13問 | 44 | 4.2 |
| 14問 | 31 | 2.9 |
| 15問 | 10 | 0.9 |

正答数分布グラフ (横軸：正答数、縦軸：割合)

